The Geological Society of Japan

地質学雑誌 第83巻 第1号 59—61ページ, 1977年1月

河村善也*・小川直樹*・井上能行*：大分県津久見市からのサイ化石の産出

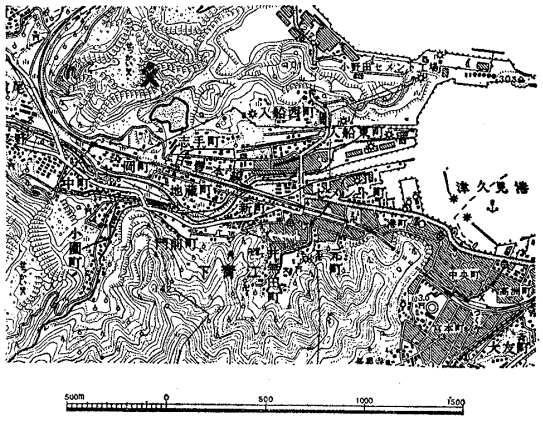
Yoshinari KAWAMURA, Naoki OGAWA and Yoshiyuki INOUE :
The occurrence of a rhinocerid fossil from
Tsukumi, Oita Prefecture, Japan

(1976年4月16日 受理)

洪積世のサイ化石産出の報告は，日本においては，きわめて少なく，現在までに栃木県葛生・山口県秋吉・福岡県門司・鹿児島県姶良(あいら)のものが知られているにすぎない．今回，筆者らは，大分県津久見市において，断片的なものではあるが，乳歯列を持つサイの下顎骨の化石を発見したのでここに報告する．

1975年8月，当時大分層群の調査をしていた河村と井上は，津久見市を訪れ，同市水晶山の採石場において，篠後数馬氏より，かつて，この採石場から多数の化石骨が産出したという情報を得た．また，同氏のはからいでその一部が保存されている津久見鉱業の事務所で標本を見ることができた．

筆者らは，ふたたび9月に津久見市を訪れ，津久見鉱業株式会社のご厚意により，下顎骨2片と肋骨片多数について調査の機会を得た．水晶山の採石場からは，これらとともに，多数の化石骨が産出したとのことであるが，現在までのところその所在はあきらかになっていない．



第1図 化石産地

(この地形図は，建設省国土地理院長の承認を得て，同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである．(承認番号) 昭51総複，第428号.)

津久見市付近には，秩父帯の古生層が北東から南西に帯状に分布しているが，そのほぼ中央に石灰岩の多い部分があり，主に二畳系の津久見層からなるとされている(神戸・寺岡，1967)．化石骨を産した水晶山も，そのほとんどがこの津久見層の石灰岩からつくられている．

篠後氏や現場の人々の話を総合すると，化石骨は，1961年ころ** 水晶山の津久見鉱業採石場内で，石灰岩の採掘中に発見されたもので，それらは大きな鐘乳洞を埋めた，石灰岩角礫を含む褐色の粘土中から発見されたという．産出地点は，現在では石灰岩の採掘が進んだために，そのおおよその場所しか知ることができない(第1図)．

今回発見された標本は，サイの下顎体の一部で，左右は分離しているが同一個体に属するものと見られる(第2図)．化石の保存はよく，白色を呈する．左右の下顎体ともにほとんど咬耗を受けていない臼歯が植立しており，その形態や大きさから乳歯列に属するものと思われる．左下顎体には DM_1～DM_4 (ただしDM_1は破損して歯根部のみ残存)，右下顎体には DM_3 および DM_4 が見られる．計測値は次のとおりである(単位はmm)．

	左	右
残存する下顎体の長さ	197.6	152.5
下顎体の高さ (DM_3直下)	43.6	40.8
下顎体の厚さ	40.8	40.5
歯列長	125.7	92.8
	(DM_2～DM_4)	(DM_3～DM_4)

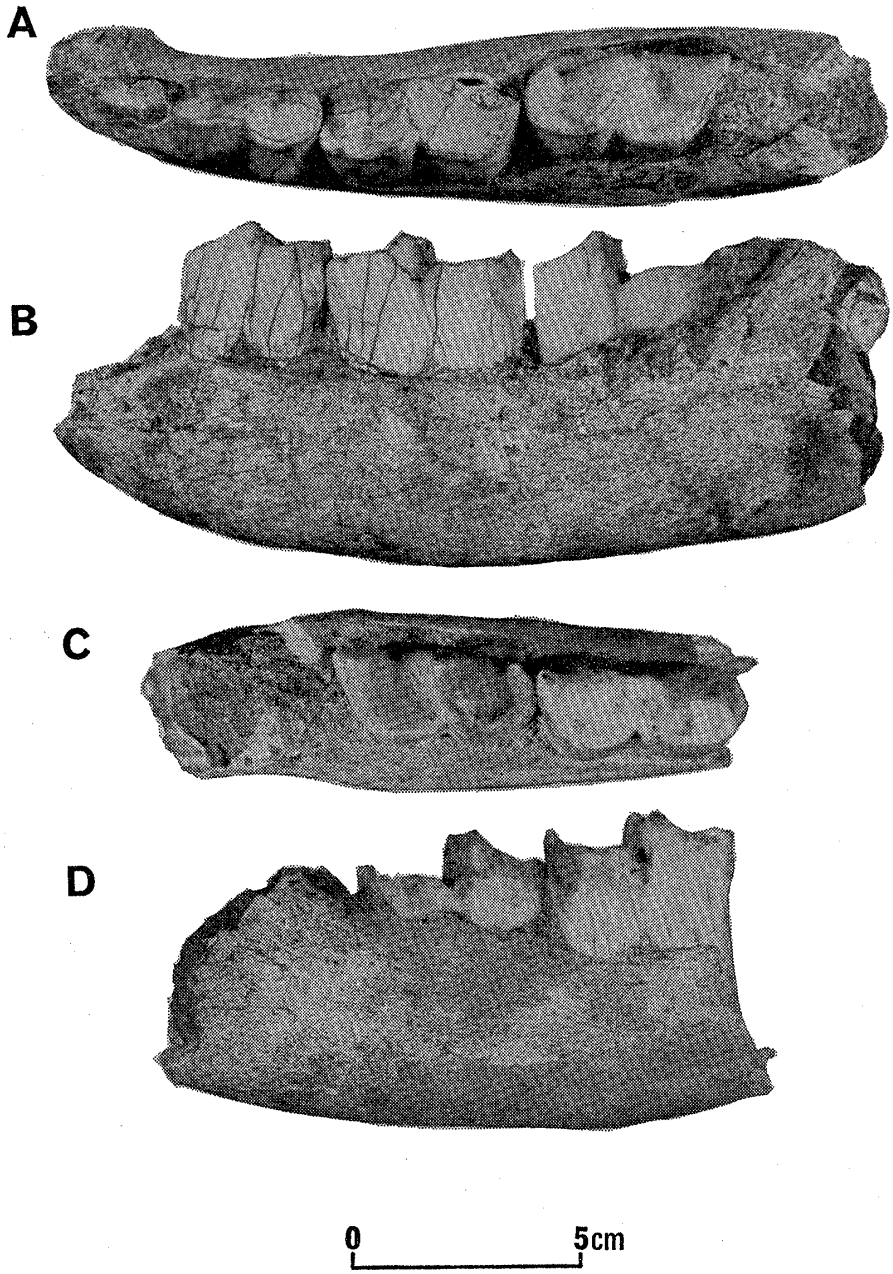
九州やその周辺では，秋吉の *Dicerorhinus nipponicus* SHIKAMA (SHIKAMA *et al.*, 1967)，門司の *Rhinoceros shindoi* TOKUNAGA, *R.* α sp., *R.* β sp. (徳永，1930)，姶良の *Rhinoceros* sp. aff. *sinensis* OWEN (SHIKAMA, 1967) が知られているが，そのいずれもが洪積世中期とされている．今回のサイ化石は，中国の四川省 Yenchingkou の *Rhinoceros sinensis* OWEN の乳歯列をもつ

* 京都大学理学部地質学鉱物学教室

** 1971年ころにも産出したとの情報もある．

NII-Electronic Library Service

The Geological Society of Japan



第 2 図

A：左下顎咬合面　B：左下顎頬側面　C：右下顎咬合面　D：右下顎頬側面

下顎骨 (Colbert & Hooijer, 1953, pl. 21 fig. 5 [AMNH. No. 18623], fig. 6 [AMNH. No. 18758]) に近いものと思われる．また，*R. sinensis* は台湾の左鎮庄，新竹州などからも報告されている(早坂，1952)．したがって，今回発見されたサイ化石も洪積世前期ないし中期の万県動物群の要素のものであると考えられる．

最後に，筆者らにこれらの化石の研究の機会を与えられた津久見鉱業株式会社，現場で案内をしていただいた篠後数馬氏や地元の方々，ご指導ご助言をいただいた京都大学の亀井節夫教授，岡崎美彦氏に心からの感謝の意を表する次第である．

文　献

Colbert, E. H. and Hooijer, D. A., 1953 : Pleistocene mammals from the limestone fissures of Szechwan, China. *Bull. Amer. Mus. Nat. Hist.*, **102**, 1—134.

早坂一郎，1952：台湾産哺乳類化石．東亜地質鉱産誌，支那之部，台湾．層位 2a，1—3.

NII-Electronic Library Service

The Geological Society of Japan

神戸信和・寺岡易司, 1967：地域地質研究報告「臼杵地域の地質」(付5万分の1図幅)・地質調査所.

SHIKAMA, T., 1967 : Note on the occurrence of fossil *Rhinoceros* from Kagoshima Prefecture, Southern Japan. *Contr. Celebrate Prof. I. Hayasaka's 76 th Birthday*, 117—119.

SHIKAMA, T., HASEGAWA, Y. and OKAFUJI, G., 1967: On a rhinocerid skull from Isa, Yamaguchi Prefecture, Japan. *Bull. Nat. Sci. Mus.*, **10**, 455—462.

徳永重康, 1930：洪積世時代本州九州朝鮮に於ける獣類穴居の遺跡. 日本学術協会報告, **6**, 175—178.

NII-Electronic Library Service